

35. 重症感染症に対する高気圧酸素療法

有川和宏*¹⁾ 堂籠 博*¹⁾ 山岡章浩*¹⁾

久保博明*²⁾ 久 容輔*²⁾ 高松英夫*¹⁾

(^{*1)}鹿児島大学医学部附属病院救急部)

(^{*2)} 同 第2外科)

【はじめに】CRP15mg/dl以上を呈し、抗生剤に抵抗を示す重症感染症患者42例に高気圧酸素療法(HBO)を導入した。男女比は36:6で年齢は14-84,平均62.8才であった。治療開始時,気管内挿管例が13例,血液濾過中のものが4例含まれていた。

【成績と結論】治療開始に伴って多くがCRPの低下をみたが,経過中4例が死亡した。うち2例はCRPの再上昇がみられ,HBOが感染抑制に絶対的な有効手段とは断定出来なかった。遠隔期に急性膵炎で1例を失った。従って全体の救命率は42例中37例の88.1%であった。経過中,咽頭腫瘍術後の永久気管口の1例と死亡した気管切開症例の1例を除いた11例は抜管可能であった。血液濾過例中慢性腎不全に移行した1例を除く3例は離脱可能であった。後半の連続する17例で感染の重症度の指標として有用といわれる顆粒球エラスターゼを治療直前と治療2週目に測定した。治療前の異常高値220.5から2週後には86.4microgram/Lと有意に低下した。またCRPと顆粒球エラスターゼの間には相関がみられ,感染の重症度をみるのにルーチンの検査としてのCRPは有用であることが示された。他に興味ある変動を示したのが血小板数で,治療前正常値以下のものが多く,DICあるいはpreDICの状況が示唆されたが,本法導入によって急速な増加がみられ,正常値を越えて上昇した後ゆっくりと正常域へ復する変動がみられた。そこで血小板のエリスロポエチンともいうべきトロンボポエチンを後半の連続する19例で治療前,治療2週後に測定した。治療前の異常高値6.2から治療2週目には1.9fmol/mlと有意な低下がみられた。即ち治療前には血小板を造れという信号が大量に出されており,実際造られていても消費量が多いため低値を示していた

ものが,消費量が減り生産量を下回った結果このような変動がみられたものと推察された。従って感染に伴うDICをも本法は改善しうる可能性を示した。